



トップインタビュー

ヤマトフィナンシャル株式会社 代表取締役社長 芝崎 健一

アセットを持たない会社の強み

ヤマトフィナンシャルは、通信販売の代金引換や、企業間決済代行、軒先現金払い・電子マネー払い、コンビニ・郵便局払い、パソコン・携帯払い、売掛金回収代行などのあらゆる決済手段を用意して、企業の流通をサポートしている会社です。決済を軸に、企業の経営改善のご提案や、購入者や利用者の生活をより便利にするサービスを提供しています。私たちの最大の特徴であり強みは、ヤマトグループがもつ物流やITの資産(アセット)を自由に組み合わせ、そこに決済や金融機能を一体化して提供できることです。自前のアセットを持たないからこそ、宅急便をはじめとした高品質で競争力のあるアセットの組み合わせと斬新なアイデアで、様々な課題を解決し新しい価値を生み出しているのです。

ダイレクトメールのヒット率をあげる秘密



モノが動くと、必ずお金の動き、つまり決済や代金回収などが発生します。決済サービスという「仕組み」とヤマトグループがもつアセットに、自由な発想を乗せて新しい市場をつくる。それはすなわち買い手の不便を解消し利便性を高めることに他なりません。震災前から変わらない私たちの取り組みなのです。たとえば、外国産のワインや食材を輸入して卸販売している会社。卸販売先として1,500から1,600くらいの飲食店や小売店舗を抱えているのですが、新規取引先の開拓にかかる営業費や、物流などにかかる経費、更には商品価格の値下げ要請が相次いで頭を悩ませていました。私たちへの相談もどうやってコストを下げるとかというもの。それに対して私たちはコストを下げながら売上も上げましよう提案しました。

具体的には、売る側は大量に買って現金で支払ってほしい。ところが、飲食店や小売店舗は店の大きさを考えると多くは買えないですし、いつも現金で購入できる訳ではありません。そこで、売掛金の保証もできる「クロネコあんしん決済サービス」を導入してもらいました。さらに、少量からの発注でも飲食店や小売店舗の財務形態に合わせて支払い方法を選べることをダイレクトメールでアピールしたところ、一般的には0.1%程度のヒット率を最大で3.6%まで引き上げることに成功。それによって新規取引先の開拓にかかるコストの削減とともに、売上のアップに成功しました。

新しい挑戦はかたっぱしからほめる

私たちのサービスには学校の学生服の販売支援もあります。簡単に言うとネット販売なのですがこれもヤマトグループと私たちのDNAに裏打ちされたものです。買い手は採寸のために登校し、受取の際に高額の現金を持ち運ぶリスクを省ける。売り手は採寸や引渡しなど人手が必要な時にアルバイトを雇うなどのコストを下げることができる。ヤマトグループはwebでの受注管理や配送、決済を請け負うことで適切な対価をいただく。近江商人風と言えば三方よしの精神です。



(1ページより続く)

社内では日々新しいアイデアが生まれていますが、実際に使い物になるのは1割あるかどうか。それでも私はチャレンジする人をかたづけしからほめます。うまくいかない時も叱るのではなく、おもしろくやっているかを聞きます。損することを恐れるのではなく、挑戦することに価値があると思うからです。

物が動き、人が動けば必ずお金が動きます。ところが、決済の領域において、商習慣や人手に頼った処理が負担となっているお困りごとが、まだまだたくさんあります。そのため、お客様の困りごとを解決するアイデアをどんどん提案していけば、商売のチャンスは無限だと考えています。幸いヤマトグループには、高品質の宅急便というオンリーワンのサービスがあります。加えて、人が生活していくうえで不可欠な、購買や支払に関わる仕組みが備わっています。さらには、B2Cの領域ばかりでなくB2Bの流通に必要な、ロジスティクス、貿易、情報システムなどもあるのであります。わたしたちはこの環境を活かして、人のためになるようにアセットを組み合わせながらどんどん新しいことに挑戦していきます。その結果としておのずと利益はついてくると確信しているのです。

【ご報告】「宅急便ひとつに、希望をひとつ入れて。」活動

◆ 「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」 第4次助成先が決定

宅急便1個につき10円を被災地の生活基盤と水産業・農業の再生資金として寄付する活動を進めています。2月29日に第4次の助成先を決定しました。今回は、宮城県のブランド海苔「みちのく寒流のり」などの種苗の生産を回復させる「七ヶ浜町水産振興センター建設事業」や福島県相馬市の塩害に強いとされる大豆の栽培から加工・流通までの6次産業化をめざす「農地復旧復興（純国産大豆）プロジェクト」など、計4件に総額21億600万円を助成します。

2月の宅急便取扱い個数は、1億196万6,056個（累計…13億876万9,264個／2011年4月～）、寄付金は10億1,966万560円（累計…130億8,769万2,640円／2011年4月～）、助成金は第1次から第4次までの総額で105億9,800万円となりました。

「宅急便ひとつに、希望をひとつ入れて。」サイト

URL: http://www.yamato-hd.co.jp/information/info/contribution_1104.html

宅急便ひとつに、
希望をひとつ入れて。



ヤマトグループ

◆ 「宅急便ひとつに、希望をひとつ入れて。」助成活動報告

福島県須賀川市に低温管理や放射能測定が可能な倉庫を新設（第1次助成）

「すかがわ岩瀬農業協同組合」で、農業用低温倉庫新築に伴う起工式が1月30日に行われました。全国に流通させるブランド米をはじめ、野菜や果物などを保管していた市内6つの農業倉庫が損害を受けた為、1つの大型倉庫に集約することを計画。農産物の品質を保つ低温保管や放射線測定機器など新しい機能を備えた施設が建設されます。倉庫は本年7月完成予定です。



農業用低温倉庫 完成図

大船渡魚市場に震災前の3倍以上（100t/日）の製氷が可能な施設を新設（第2次助成）

岩手県の「製氷・貯氷施設回復支援事業」で、大船渡市に新設する製氷・貯蔵保管施設の地鎮祭が2月10日に行われました。県内1.2を争う大船渡魚市場は、昨年6月に営業再開しましたが、市内4カ所の製氷施設のうち2カ所が津波で被災し、鮮度を保つための氷を県外から調達せざるを得ない状況でした。新施設では、震災前の3倍以上にあたる1日100tの製氷機能を持ち、漁船への安定した氷の供給が可能になります。新施設は、本年7月完成予定です。



製氷・貯蔵保管施設 完成図



新着情報

ヤマトグループ各社、各地域での様々な取り組みや今後の予定などについて、いち早くお知らせします。

【ヤマト運輸】

法人向け業務支援ポータルサイト「ヤマトビジネスメンバーズ」を1月23日に開設

法人のお客様※を対象に提供してきた業務支援ポータルサイト「クロネコマイページ」を、より簡単・安心・便利にご利用いただけるよう全面的にリニューアルし、新サイト「ヤマトビジネスメンバーズ」を開設しました。

新サイト「ヤマトビジネスメンバーズ」は、画面の操作性が大幅に向上したほか、新メニューとして宅急便の送り状やクロネコメール便のラベルをさまざまな場所で簡単に発行できるサービス「送り状発行システム／B2Web(ビーツーウェブ)」などを追加しています。

当サイトは、今後も法人のお客様の利便性向上を目指し、新機能やヤマトグループ各社のビジネス向けサービスも順次メニューに加えていく予定です。

※ヤマト運輸と掛売契約を結んでいただいている法人のお客様



「ヤマトビジネスメンバーズ」URL: <http://yamato-bm.jp/>

【ヤマトキャリアサービス】

楽天市場にあるショップ内の商品情報から、スマホ・タブレット用アプリを自動生成する「タッチパネルECアプリ」を提供開始

楽天市場に出店する事業者向けに、自社ショップ内の商品情報をもとに、スマートフォン・タブレット端末用の通販アプリを自動生成するサービス「タッチパネルECアプリ」の提供を開始しました。

商品情報はWebシステムを通じて自動的に取得されるため、アプリ側で更新や商品情報登録を行う必要はありません。また、スマートフォン・タブレット端末に適した画面を自動生成しますので、利用者は通常のスマートフォン・タブレット端末利用時と同様に、上下のスクロール操作をするだけで商品を読覧できます。アプリ公開後は、効果測定やダウンロード促進施策など、楽天市場での売り上げアップのための販促支援も行う予定です。



ヤマトパッキングサービス

個人情報簡単に消去できる宛名ラベル「消え～るくん」特許取得

2011年12月、クロネコメール便の宛名ラベルとして提供している「消え～るくん」の特許を取得しました。

印字部分にスクラッチ機能を持たせているため、コインなどで擦るだけで住所や名前などの個人情報を消去できます。また、ハサミやシュレッダーなどで裁断する必要がなく、有害物質が含まれていないので、ケガなどの心配もありません。個人情報を簡単・確実・安全に消去できることから多くの企業に利用され、2006年の開発以来、約1千万冊に採用されています。

※「消え～るくん」は、ヤマトパッキングサービスと共同印刷(株)による共同開発品です。





新着情報

ヤマトグループ各社、各地域での様々な取り組みや今後の予定などについて、いち早くお知らせします。

【ヤマト運輸】 京都市の環境に配慮し景観をイメージしたデザイン車が稼働開始

2月24日、ヤマト運輸の関西支社長と京都主管支店長が、京都市の門川市長を訪問しました。

地元大学生を対象にした「歩くまち・京都」グッドデザインコンテストの大賞・優秀賞作品をラッピングした軽商用EV車と集配コンテナ搭載の台車・リアカー付き電動自転車が、京都市内で稼働することを報告しました。

2月25日から軽商用EV車28台が京都市内を走っています。昨年5月から始まった歴史と伝統が息づくまち・京都に役立つ「京都プロジェクト」(第1弾は嵐電との協業による路面電車を活用した集配システム)は、今後も新たなプロジェクトを展開していきます。



お知らせ

【タイヤマト運輸】 タイの小学校に梱包資材をリメイクした机・椅子を寄付

2011年12月23日、バンコク中心部から西に約100Kmのラーチャブリー県にある小学校へ、机・椅子を50セット寄付しました。タイの小学校では、就学率は高くなっていますが、まだまだ学習環境が整っていません。寄付をした机や椅子は、梱包作業をするタイヤマトの社員が、自動車部品等の輸出貨物を梱包する際に余った木材を利用して製作しました。同日行われた贈呈式で、製作した社員から子どもたちに直接手渡しました。



【ヤマト運輸】 全国55,000人の頂点を目指しドライバー技能を競う 第一回ヤマト運輸全国安全大会を三重県鈴鹿市にて開催

三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキット交通教育センターにて、会社と労働組合が共催で全社規模としては初めて全国安全大会を開催しました。

同大会は、「2tMPバン」「2tウォークスルー」「軽自動車」の3部門に分かれ、全国10か所の支社大会を勝ちあがったセールスドライバー総勢30名が、学科、日常点検整備、運転実技の合計得点を競うものです。全国各地から集まった300人の応援を前に、「安全第一、営業第二」をモットーに日ごろ鍛えた運転技術・知識を披露。全国55,000人のセールスドライバーの頂点を目指し熱い戦いが繰り広げられました。



写真左から

【2tMPバン部門優勝】 織田昌之・大阪主管支店

【軽自動車部門優勝】 佐竹正樹・大阪主管支店

【2tウォークスルー部門優勝】 新谷洋・香川主管支店